

2018. 7. 9

NPOフォーラム・だより No.84



NPO法人安房文化遺産フォーラム

代表 愛沢伸雄

〒294-0036 千葉県館山市館山 1016 さらしな館 TEL&FAX:0470-22-8271

Eメール awabunka@awa.or.jp 公式サイト <http://bunka-isan.awa.jp>

会員・寄付募集中！ ⇒ 郵便口座 00260-1-97307 名義:NPO法人安房文化遺産フォーラム

年会費=A会員 2,000 円(総会議決権あり) / B会員:個人 1,000 円(ニュースのみ送付)・法人 10,000 円

◎ NPOメンバー3名、ウガンダへ支援成果の視察訪問 8月10日(金)～20日(月)

渡航費補助のカンパ、大歓迎！



安房の高校生によるウガンダ支援活動は、今年24年目を迎えます。今なお、子どもたちの生活や教育は充足しきれていませんが、CUFI (ウガンダ意識向上協会) のスチュアート・センパラ氏を中心に、家族のように支え合いながら、持続可能な地域社会を旨とした活動は、私たち日本人が学ぶべきコミュニティの姿といえます。昨年のクラウドファンディングを通じて集めた支援金 10,000 ドルで購入した車両は、孤児の送迎や生活物資の運搬に活躍しているようです。

ウガンダコーヒー豆のチャリティ販売で協力してくださったポラリス珈琲店主の鈴木正博氏の呼びかけにより、今夏、河辺智美さん、愛沢香苗さんの3名がウガンダを訪問することになりました。安房南洋裁学校はじめ、これまでの支援成果を視察するとともに、コーヒー豆のコミュニティトレードの可能性を模索することが大きな目的です。赤道直下のウガンダコーヒー豆はとても美味しく、過日の安房西高校文化祭においても、JRC(青少年赤十字)部による支援バザーで販売し、たいへん好評でした。10月には賛同する数店舗で【ウガンダコーヒー月間】キャンペーンを開催予定。

3名のウガンダ渡航費を補助するカンパをご支援いただければ幸いです。秋には報告会も計画します。

◎ 第14回安房・平和のための美術展

8月18日(土)～26日(日) 枇杷倶楽部ギャラリー

14年目となるチャリティ美術展は、今年もその一部がウガンダ支援に寄贈されます。ウガンダの子どもたちの絵画作品とともに、スチュアート・センパラ氏の作品も出品されます。

◎ ウガンダ写真展 9月16日(日)～10月7日(日) 館山病院ギャラリー

◎ ウガンダ支援バザー 10月7日(日) 館山病院感謝祭



青木繁「海の幸」記念館 (小谷家住宅) 友の会

NEWS

青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会

◎ 青木繁の絶筆『朝日』複製画 除幕式

7月13日(金) 10:00～ 入館無料

28歳で早逝した青木繁の最期の作品『朝日』は、布良の夕陽を描いた心象風景ともいわれています。国内屈指の技術者である島田吉廣氏が、作品の傷みを修復し原画に忠実な色彩を再現した複製画をお披露目します。当日は青木繁の生誕記念日でもあり、入館無料とします。

青木繁『朝日』佐賀県立小城高校同窓会「黄城会」蔵



* アジサイまつり 7月13～16日(金～月)

維持協力金(入館料) 200円・小中高 100円

* 3つの「あ」の寺子屋講座

資料・お茶菓子代 300円 (友の会会員は無料)

第5回: 7月12日(木)13:30～「複製画《朝日》の制作から青木繁作品を語る」島田吉廣氏(印刷技術者)

第6回: 9月27日(木)13:30～「海辺の臨床美術を体験しよう」渡辺克雄氏(精神科医)

* 女子美術大学附属中学スケッチツアー展

7月28日(土)～9月2日(日)

青木繁「海の幸」記念館、千里の風、安房自然村

女子美術大学附属中学2年生141名が館山市布良をスケッチツアーで訪れ、青木繁「海の幸」記念館や布良崎神社、漁港を水彩で写生しました。夏休みに、素晴らしい作品をお借りして展示します。

朝日新聞千葉(ひと) 2018.5.16

館山の赤山地下壕のガイド・関和美さん 伝える情報見つけて喜び



館山市の指定史跡「館山海軍航空隊 赤山地下壕跡」は昨年度、入壕者数が約3万8千人を超えた。戦後70年の節目だった2015年度に市内で戦争遺跡の全国大会が行われたことから注目を集め、ここ数

年の入壕者は増加傾向。人氣を陰で支えているのが市民による地下壕ガイドだ。NPO法人「安房文化遺産フォーラム」に所属する関和美さん(43)もその一人。毎月第一日曜の午前に個人や少人数のグループが対象の無料ガイドの一員として参加するほか、フォーラムが催す10人以上の団体向け有償ツアーのガイドとしても活動。赤山地下壕以外の市内の戦争遺跡や文化遺産なども紹介する。本業は亀田総合病院の図書室で、院内の専門家に情報を提供する司書だ。NPO法人の愛沢伸雄代表が高校時代の世界史の恩師だった縁で、08年ごろからガイドを始めた。伝える情報は先輩から学ぶほか、質問を受けて自ら調べる。「調べて分からねければ、さらに調べる。情報探しは宝探し。欲しかった情報を見つけるとうれし。そうやって地域に貢献できるのが楽しい」と笑顔で話す。「今後は、若い世代のガイドに自分の体験や知識を継承していかなければ」(川上真)

おすすめの1冊！
NPOメンバー島田輝弥さんが
稲村城跡をガイドしています。

『新発見！千葉』

洋泉社 1,404 円



歩きたくなる、ふるさと20の物語。
「南総里見八犬伝」ゆかりの地を行くというテーマ。島田さんは稲村城跡を保存する会の元事務局長です。

◆ ツアーガイド&講演のスケジュール ◆

- * 10名以上の団体を対象に、スタディツアーガイドを有料で承っています。
- * 毎月第一日曜の午前は、個人や小グループを対象に、赤山地下壕ガイドサービスを実施しています。

7月20日(金) 9:30～ 港湾都市協議会 50名＝赤山・城山
7月27日(金) 10:00～15:00 千倉生涯学習員講座 35名＝赤山・座学・渚の駅・かにた村
7月28日(土) 9:50～10:50 菅生学園初等学校4・5年 25名＝赤山(雨天のみ)
8月 1日(水) 10:00～15:30 千葉市教員研修 30名＝座学・赤山・掩体壕・米占領軍上陸地
8月 5日(日) 9:30～12:00 赤山地下壕ガイドサービス
8月25日(土) 10:30～15:00 大網白里市生涯学習課:親子教室 32名＝紙芝居・座学・赤山・掩体壕・上陸地
9月 2日(日) 9:30～12:00 赤山地下壕ガイドサービス
9月28日(金) 足立区退職教職員
10月 1～2日(月火) 東葛飾高校 25名＝座学・赤山・かにた村・青木繁記念館・大巖院
10月 7日(日) 9:30～12:00 赤山地下壕ガイドサービス
10月11日(木) 9:30～16:00 渋谷幕張学園中学 40名＝座学・赤山・八犬伝・青木繁(戦跡+文学芸術コース)
10月11日(木) 13:00～16:00 わせがく高校 190名＝座学・赤山・上陸地
10月13日(土) 10:15～11:45 旅屋 70名＝赤山



◇ かにた婦人の村

8月15日(水) 16:00 慰霊祭
8月23日(木) 17:30 夏祭り夜店(要予約)
9月14・15日(金土) 8:30～14:00 エマオ作業所バザー

スタッフ募集!

◎ 第22回戦争遺跡保存全国シンポジウム 愛知県豊川大会

8月18(土)～20日(月) 全大会・分科会・見学会

… 詳細はHPまたは下記に問合せ

- ・現地実行委員会:豊川海軍工廠跡地保存をすすめる会 0533-85-1199
- ・戦争遺跡保存全国ネットワーク事務局(松代) 026-228-8415

日本経済新聞 2018.5.30付

文

化

『堀江芳介壬午軍乱日記』
西村榮雄著
みずのわ出版 4,320 円



1882年(明治15年)、近現代史における日本と朝鮮半島の関係を大きく左右する事件「壬午軍乱(事変)」が朝鮮の首都漢城(現ソウル)で起こった。開化派と守旧派が政争を繰り広げる中、待遇に不満を持つ朝鮮の兵士の反乱が勃発。半島への影響力を強めようとする日本と清国双方が軍隊を送った。事件をきっかけに対立を激化させた日清両国は12年後、日清戦争に突入。戦争に勝って清国の影響力を排除した日本は、続く



日記には細かなペン字がびっしり並ぶ

日記帳は手のひらに収まる小さなもので、黒革の表紙を開くと2、3ページの細かなペン字がびっしり並ぶ。文語体で漢字はくずし字が多い。句

◇事件を記した従軍日記帳、20年かけて読み解く◇

西村 榮雄



異なるきちようめんな性格がのぞく。8月2日から始まる日記があるので、日記だと察しがついた。虫眼鏡で一字一字拾って読んでいくと、祖父は汽車で東京・新橋を出発し、横浜で船に乗り換えて神戸、下関に寄り、その後「朝鮮国京畿道仁川湾二向」だった。途中に「花房公使」の名前があったことなどから、壬午軍乱の従軍日記だと分かった。

不満が爆発したという。新式部隊は日本と国交を結んだ閔氏政権が設立、日本の軍人が教官を務めた。そのため反乱は反日暴動の性質も帯びていた。反乱軍は閔氏政権の高官を襲っただけでなく、新式部隊の日本人教官を殺害。漢城の日本公

使館も襲った。花房公使は辛くも脱出して帰国。事件収拾のため再び漢城に派遣される際、祖父らが護衛に付くことになった。祖父のペンには、19世紀後半の東アジア各国が国際関係をどう認識していたかを最前線から記録している。日本軍は半島に上陸する前、略奪や放火などの暴力を戒め「降伏シ決シテ租界ノ挙動アル可ラサル事」とする布告を出した。人道を守る「文明国」としての姿を西欧列強にアピールする側面があったのだろう。

朝鮮を「属国」とみなす清国が「仲裁」を名目に素早く陸海軍を派遣する様も捉えた。8月12日、祖父らが仁川近くの月尾島沖に到着すると、英国製の新型を含む清国軍艦3隻が停泊していた。日記を讀む限り、清国軍の防

く日露戦争でも南下を図るロシアを抑え、1910年に朝鮮半島全体を併合することになる。

読点もなく、極めて読みにくい。祖父は幕末の長州奇兵隊出身で、反骨精神とユーモアあふれる人柄だったらしいが、日記の文字からは豪放さは

反日暴動の性質も事件は旧式部隊の反乱から始まった。近代的な訓練を受けた新式部隊との待遇差に対したまった

使館も襲った。花房公使は辛くも脱出して帰国。事件収拾のため再び漢城に派遣される際、祖父らが護衛に付くことになった。

祖父のペンには、19世紀後半の東アジア各国が国際関係をどう認識していたかを最前線から記録している。日本軍は半島に上陸する前、略奪や放火などの暴力を戒め「降伏シ決シテ租界ノ挙動アル可ラサル事」とする布告を出した。人道を守る「文明国」としての姿を西欧列強にアピールする側面があったのだろう。

朝鮮を「属国」とみなす清国が「仲裁」を名目に素早く陸海軍を派遣する様も捉えた。8月12日、祖父らが仁川近くの月尾島沖に到着すると、英国製の新型を含む清国軍艦3隻が停泊していた。日記を讀む限り、清国軍の防

衛研究所に通い、資料解読の手ほどきを受けて何とか出版にこぎ着けた。一語の意味を解読するのに半年かかったこともある。事件で殺された日本人教官の記述で「サンチロン」という言葉が出てきた。「葉の名前か」と調べても分からない。薬学博士の知人も「聞いたことがない」とお手上げ。途方に暮れていたら、国会図書館かどこかで偶然見つけた。軍刀や拳銃をつるためのベルトを差すフランス語だった。

こうした解読の苦勞も今となっては笑い話。祖父の日記が近代史の資料として残るなら、こんなうれしいことはない。(にしむら・よしお) 社会福祉法人監事

NPOメンバー金床恵さん
おすすめの1冊

『黒い砂』

ク・ソウン著 李恵子訳
新幹社 2,160 円



済州島出身海女の四代にわたる家族史。南房総の和田浦から三宅島…、日本における交流ネットワーク。戦中、戦後の厳しい時代、大きな歴史的現実揺り動かされ、波乱万丈の生活のなかで、たくましく、そして希望を失わない心。

Album & Research study

「房州北条に於ける 東京高等師範学校遊泳部」

絵葉書提供: 安房高校卒業生の宇山祐明さん

東京高等師範学校の校長・嘉納治五郎は1902(明治 35)年より、房州北条(現館山市)で水泳実習を始め、1905(明治 38)年からは2週間の水泳実習を予科生(新入生)の必修とした。翌年には一高(現東京大学)なども参加して、第1回関東連合遊泳大会が、北条海岸で開催され、館山が水泳指導のメッカとなる。

嘉納の甥・柳悦多(館山在住の水産家)は柔道や野球の指導にあたっていた。その縁もあり、嘉納の門弟で柔道と水泳師範の本田存は館山に居住し、旧制安房中学(現安房高校)を水泳日本一になり「カップ中学」と異名された。また高等師範から水府流太田派の古式泳法を受け継ぎ、今なお安房高校では古式泳法部が活躍している。



「千葉県安房高等女学校水泳部 大正 11 年 7 月」



全国的に女子の水泳がまだ一般ではなかった 1922(大正 11)年 7 月、安房高等女学校では全校水泳が始まった。

水着は、栃木県足利より白地に黒の格子の布地を共同購入し、襦袢のきいた型を生徒自らが裁縫して制作した。当時の長須賀校舎から新井海岸までぞろぞろ長い列が続き、夏の風物詩となったという。関東大震災で長須賀校舎が倒壊する前年のことである。

安房高等女学校木造校舎を愛する会

7 月 15 日(日) 8:00~9:30

旧安房南高校で、草刈りや
木造校舎・旧講堂の掃除をします。
ぜひ一緒に！

【木内塾】

「宇宙から見た地球 ～エネルギーと産業の未来を考えよう～」

宇宙から地球をみる視点をもつことで、自然の本質を理解し、新しいエネルギーの可能性や産業の未来が見えてきます。30 年にわたり、エネルギーとゴミ問題に取り組んで木内氏が開発した「太陽光炭素化炉」の国際特許は、実用化に向けて進みはじめています。国内でも、電波基地局の自走化と温室ガスの無排出化を目的にした研究が注目されています。

講師：木内鶴彦氏(彗星搜索家)

7 月 29 日(日) 13:00~16:00 早稲田奉仕園 you-i ホール(新宿区西早稲田 2-3-1)

前売り 3,000 円/当日券 4,000 円(高校生以上)

申込：QR コードから、または NPO 事務局へ問合せ下さい。



【一般財団法人あわ】
協働プロジェクトのリーダーです。

【木内鶴彦氏プロフィール】

航空自衛隊のディスパッチャー時代、生死をさまよう体験を経て退官。長野県佐久市で彗星搜索をし、発見した業績を国際天文連合に認められ、3つの彗星・惑星に「KIUCHI」と命名されている。環境問題や天文について全国で講演会・観望会をおこなう。惑星探査、環境保護活動、太陽光炭素化炉システム、太古の水の開発などが評価され、東久邇宮文化褒章受章。

